

教育研究上の目的

幼児教育学科は、「子どもから学ぶ」という基本姿勢のもと子ども一人一人を尊重し、子どもの豊かな育ちを支える感性と知識を有し、家庭・地域・社会の課題に柔軟に対応できる実践力を身につけ、子どもとともに自らも育ち続けようとする意欲をもった人間性豊かな保育者（人材）を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 保育・教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、子どもと響きあえる豊かな感性と表現力を持ち、生涯にわたって子どもとともに自己を高めようとする意欲を有している。
2. 一人一人の子どもを尊重し、共感的に理解・対話する態度を有し、子どもの育ちを支えるために多様な他者と連携することの重要性を理解し、協働的な保育を実践する力を身につけている。
3. 子どもの実態と社会における諸課題を捉えて保育を構想・実践し、適切な判断力と実行力をもって課題解決に取り組み、組織・家庭・地域・社会へ貢献できる力を身につけている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 保育・教育に関する基本的な理論、子どもの理解に関する知識を身につけ、説明できる。
2. 「子どもから学ぶ」という基本姿勢を備え、子どもの人権を尊重し、子どもとの対話を通して子どもの世界を共感的に理解しようとする。
3. 保育・教育の制度・政策、子どもの成育環境についての現状を理解し、保育・教育をめぐる諸課題について説明することができる。

②思考力・判断力・表現力

1. 子どもと一緒に感じたり考えたりできる豊かな感性を養い、子どものさまざまな表現を見つめ受け止めながら、子どもと響き合う表現を探求できる。
2. 子ども一人一人の主体性が十分に発揮されるための適切な援助を即応的に判断し、実践することができる。
3. 子どもの姿から、求められる保育を構想・計画し、実践することができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 自らの学修や保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、子どもとともに育ち続けようとする自己研鑽の意欲を有している。
2. 保護者・地域・他の専門職との連携や役割分担について理解し、多様な他者と協働して課題解決に向かおうとする。
3. 保育・教育に関わる社会的課題の解決に向け、子どもの育ちを支える者として自分の役割を考え、広く社会へ貢献することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幼児教育学科では、「子どもから学ぶ」という基本姿勢をもった保育者養成を基盤とし、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけるためのカリキュラムとして6領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1. 「保育・教育の本質」領域では、保育の基本的理念や制度、社会の諸課題に対する知識の修得を目指し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を養う講義科目を設置する。
2. 「子ども理解・人間理解」領域では、子どもを共感的に理解し、他者と対話・協働しようとする姿勢を養い、子どもの育ちを理解するための専門的知識や技能を幅広く修得する科目を設置する。
3. 「保育・教育の内容と方法」領域では、保育内容の各領域や、乳児保育や障害児保育等の各分野に特化した知識と技能を修得するとともに、保育内容の総合性を理解し、保育を構想する力を養う演習形式の授業を中心とした科目を体系的に設置する。
4. 「感性と表現」の領域では、子どもの豊かな表現を見つめ、育むために、子どもと響き合う感性や表現力を涵養する。そのため、演習形式の授業における参画型の学修を中心とした授業を設置する。
5. 「フィールドワーク（実習）」領域では、さまざまな保育現場で子どもや保育者等とかわりながら、状況に応じて判断・行動する力、協働的に保育を構想・実践する力を段階的に身につけ、自らの保育を省察し続ける姿勢を養う科目を1年次より設置する。
6. 「発展と総合」領域では、保育・教育の学びを統合する科目、研究方法に関する知識を修得する科目を3年次の必修科目として設置する。また、3・4年次を通して自己課題や子どもをめぐる諸課題を発展的に探求できる選択科目を設置する。
7. 3年次後期より卒業研究に向けたゼミナール形式の科目を設置する。4年次には本学科で学修した成果をまとめて社会に還元するための科目として卒業研究を設置する。

各授業の目標に応じて、ディスカッションやグループワークを通して仲間と学び合う機会、リアクションペーパー等を通して教員と双方向的に学び合う機会、主体的に課題を探究し、発表する機会を適切にもつ。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

保育・教育の本質

1. 保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識を修得させ、子どもの成育環境についての現状を理解し、社会における諸課題について説明できる能力を育成する。
2. 保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人一人の主体性を尊重する保育者の基本姿勢について考え、説明できる能力を育成する。
3. 子どもをめぐる社会の諸課題の解決に向けて、保育者が保護者・地域・他の専門職との連携協働することの重要性が理解できる能力を育成する。

子ども理解・人間関係

1. 子どもの発育や発達についての専門的な知識と技能を修得させ、これらの知識に基づきながら子ども一人一人を共感的に理解しようとする保育者の基本姿勢を獲得させる。
2. 子どもと対話しながら子どもの生活の実態や発達の理解を深め、子ども一人一人に適切な環境や援助を考える力を身につけさせる。
3. 保育者として保護者・地域・他の専門職とも連携しながら子ども理解を深め、他者と協働しながら子ども一人一人にふさわしい生活を実現していこうとする態度を身につけさせる。

保育・教育の方法と内容

1. 子どもたちに育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域、乳児保育や障害児保育等についての専門的な知識と技能を修得し、子どもの育ちに即した保育を構想する方法を身につけ、指導計画を作成する能力を育成する。
2. 保育内容の総合性を理解し、保育事例について仲間と意見交換をしたり、模擬保育等で仲間や教員とさまざまな役割をとったりし、援助の実際を考えることができる力を身につけさせる。

3. 子どもの最善の利益のために、保育者として保護者・地域・他の専門職と連携していく手立てを理解し、自らの役割を担おうとする態度を身につけさせる。

感性と表現

1. 生活や遊びにおける子どもの表現とは何かを理解し、子どもの気づきや興味・関心からはじまる表現を見つめ、受け止めるまなざしを獲得させる。
2. 子どもと一緒に感じたり考えたりできる感性をもち、子どもの感性や表現がより豊かになるための可能性を捉え、自身も表現し、行動する能力を育成する。
3. 一人一人の子どものさまざまな表現と豊かに響き合えるように、自身の表現を磨いたり、探究したりしようとする意欲を育成する。

フィールドワーク（実習）

1. 保育者に求められる倫理観と社会人として求められる基本的態度を身につけさせるとともに、子どもと共に生活し遊ぶことを通して「子どもから学ぶ」姿勢と態度を育成する。
2. 子ども一人一人に対する共感的理解に基づき適切な援助を即応的に判断する力、子どもの育ちを見通しながら保育内容を構想し展開する力を段階的に育成する。
3. 自らの保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、多様な他者と連携・協働しながら、子どもとともに育ち続けようと自己研鑽する姿勢を身につけさせる。

発展と統合（卒業研究）

1. これまでに学修した知識や技能を有機的に統合させたり、保育・教育に関わる新たな知識や技能を発展的に修得させる。
2. 学修の軌跡を捉え、自ら課題を設定して研究しようとする姿勢を育成し、仲間と意見交換をしたり成果を発表したりする能力を育成する。
3. 自己課題を自覚し主体的にその解決に取り組もうとする姿勢とともに、子どもをめぐる社会の諸課題を捉え発展的に探求する姿勢を促し、自身の学びの成果を社会へ還元しようとする意欲を育成する。

I	学修
II	資格取得一覧
III	人間生活学部
IV	教育人文学部
V	社会情報デザイン学部
VI	教職課程
VII	諸課程
VIII	単位認定
IX	他大学との単位互換
X	大学院
XI	施設
XII	Q & A
XIII	教務関連規程
	学びのハンドブック

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

幼児教育学科 カリキュラムマップ

 → 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
保育・教育の本質	・保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識を修得させ、子どもの成育環境についての現状を理解し、社会における諸課題について説明できる能力を育成する。 ・保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人一人の主体性を尊重する保育者の基本姿勢について考え、説明できる能力を育成する。 ・子どもをめぐる社会の諸課題の解決に向けて、保育者が保護者・地域・他の専門職との連携協働することの重要性が理解できる能力を育成する。	児童学概論	保育制度・保育政策論		
		幼児教育学	子ども家庭支援論		
子ども理解・人間関係	・子どもの発育や発達についての専門的な知識と技能を修得させ、これらの知識に基づきながら子ども一人一人を共感的に理解しようとする保育者の基本姿勢を獲得させる。 ・子どもと対話しながら子どもの生活の実態や発達の理解を深め、子ども一人一人に適切な環境や援助を考える力を身につけさせる。 ・保育者として保護者・地域・他の専門職とも連携しながら子ども理解を深め、他者と協働しながら子ども一人一人にふさわしい生活を実現していこうとする態度を身につけさせる。	教育学	社会的養護Ⅰ		
		保育者論			
保育・教育の方法(内容)	・子どもたちに育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域、乳児保育や障害児保育等についての専門的な知識と技能を修得し、子どもの育ちに即した保育を構想する方法を身につけ、指導計画を作成するスキルを習得させる。 ・保育内容の総合性を理解し、保育事例について仲間と意見交換をしたり、模擬保育等で仲間や教員とさまざまな役割をとったりし、援助の実際を考えることができる力を身につけさせる。 ・子どもの最善の利益のために、保育者として保護者・地域・他の専門職と連携していく手立てを理解し、自らの役割を担おうとする態度を身につけさせる。	子ども家庭福祉Ⅰ	子ども家庭支援の心理学	保育・教育相談	
		社会福祉	子どもの理解と援助	子どもの保健	
感性・表現	・生活や遊びにおける子どもの表現とは何かを理解し、子どもの気づきや興味・関心からはじまる表現を見つめ、受け止めるまなざしを獲得させる。 ・子どもと一緒に感じたり考えたりできる感性をもち、子どもの感性や表現がより豊かになるための可能性を捉え、自身も表現し、行動する能力を育成する。 ・一人一人の子どものさまざまな表現と豊かに響き合えるように、自身の表現を磨いたり、探究したりしようとする意欲を育成する。		特別支援教育概論	子どもの食と栄養	
			青年心理学	多文化保育論	
フィールドワーク(実習)	・子どもと環境 子どもと言葉				
			子どもと健康	保育内容総論	
発展と統合(卒業研究)	・子どもと環境 子どもと言葉		子どもと人間関係	保育内容の指導法(環境)	
			子どもと表現Ⅰ	保育内容の指導法(人間関係)	
D P	・これまでに学修した知識や技能を有機的に統合させたり、保育・教育に関わる新たな知識や技能を発展的に修得させる。 ・学修の軌跡を捉え、自ら課題を設定して研究しようとする姿勢を育成し、仲間と意見交換をしたり成果を発表したりする能力を育成する。 ・自己課題を自覚し主体的にその解決に取り組もうとする姿勢とともに、子どもをめぐる社会の諸課題を捉え発展的に探求する姿勢を促し、自身の学びの成果を社会へ還元しようとする意欲を育成する。	子どもと表現Ⅱ	保育内容の指導法(健康)	保育内容の指導法(言葉)	
			教育方法	保育内容の指導法(表現)	
CP	幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 １．保育・教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、子どもと響きあえる豊かな感性と表現力を持ち、生涯にわたって子どもとともに自己を高めようとする意欲を有している。 ２．一人一人の子どもを尊重し、共感的に理解・対話する態度を有し、子どもの育ちを支えるために多様な他者と連携することの重要性を理解し、協働的な保育を実践する力を身につけている。 ３．子どもの実態と社会における諸課題を捉えて保育を構想・実践し、適切な判断力と実行力をもって課題解決に取り組み、組織・家庭・地域・社会へ貢献できる力を身につけている。	乳児保育Ⅰ	社会的養護Ⅱ	保育・教育課程論	
		子どもの健康と安全		障害児保育	
フィールドワーク(実習)	・保育者に求められる倫理観と社会人として求められる基本的態度を身につけさせるとともに、子どもと共に生活し遊ぶことを通して「子どもから学ぶ」姿勢と態度を育成する。 ・子ども一人一人に対する共感的理解に基づき適切な援助を即断的に判断する力、子どもの育ちを見通しながら保育内容を構想し展開する力を段階的に育成する。 ・自らの保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、多様な他者と連携・協働しながら、子どもとともに育ち続けようと自己研鑽する姿勢を身につけさせる。	音楽リテラシーⅠ	ネイチャー・ワーク	乳児保育Ⅱ	
		感じて表現・考えて表現		子ども家庭福祉Ⅱ	
発展と統合(卒業研究)	・これまでに学修した知識や技能を有機的に統合させたり、保育・教育に関わる新たな知識や技能を発展的に修得させる。 ・学修の軌跡を捉え、自ら課題を設定して研究しようとする姿勢を育成し、仲間と意見交換をしたり成果を発表したりする能力を育成する。 ・自己課題を自覚し主体的にその解決に取り組もうとする姿勢とともに、子どもをめぐる社会の諸課題を捉え発展的に探求する姿勢を促し、自身の学びの成果を社会へ還元しようとする意欲を育成する。	子どもと運動		子育て支援	
				音楽リテラシーⅡ	
D P	幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 １．保育・教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、子どもと響きあえる豊かな感性と表現力を持ち、生涯にわたって子どもとともに自己を高めようとする意欲を有している。 ２．一人一人の子どもを尊重し、共感的に理解・対話する態度を有し、子どもの育ちを支えるために多様な他者と連携することの重要性を理解し、協働的な保育を実践する力を身につけている。 ３．子どもの実態と社会における諸課題を捉えて保育を構想・実践し、適切な判断力と実行力をもって課題解決に取り組み、組織・家庭・地域・社会へ貢献できる力を身につけている。			保育表現演習(造形表現)	
				保育表現演習(音楽表現)	
CP	幼児教育学科では、「子どもから学ぶ」という基本姿勢をもった保育者養成を基盤とし、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけるためのカリキュラムとして6領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。			保育表現演習(身体表現)	

教育人文学部 幼児教育学科 (EA)

専門科目教育課程 2025年度生

科 目 群		卒業に必要な単位数	
共 通 科 目		22単位以上	
学科専門科目	必 修	56単位	90単位以上
	選 択	34単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目 9 単位、選択必修科目 6 単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目56単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!??

- a. 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目28単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる。
- b. 自学科の専門選択科目34単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目40単位取得した場合は、6 単位分が自由選択科目の単位となる
- c. 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。
- a～c を組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)													
			必修	選択						基礎理論の修得	保育・教育の基	感性と表現力の醸成	子どもと関わる意欲	自己省察と自己研鑽への意欲	子どもの権利に対する意識	子どもの共感的理解	子どもの権利擁護	多様な他者と連携・協働しようとする態度	保育・教育をめぐる社会的な諸題への理解	保育・教育をめぐり保育の想・計画と実践	子どもの実態に基づいた課題の解決に向けた意欲	保育・教育の社会的課題の解決に向けた意欲	
専門科目	保育・教育の基礎	児童学概論	2		講義	前	1 年	○		◎				◎				◎					◎
		幼児教育学	2		講義	前	1 年	×		◎			○	◎		◎			◎				○
		教育学	2		講義	後	1 年	×		◎			○	◎		◎			◎				○
		保育者論	2		講義	後	1 年	×		◎			○	◎		◎			◎				○
		保育制度・保育政策論	2		講義	後	2 年	×		◎				◎		◎			◎				○
		子ども家庭福祉Ⅰ	2		講義	前	1 年	×		◎				◎		◎			◎				
		社会福祉	2		講義	後	1 年	×		◎									◎				◎
		子ども家庭支援論		△2	講義	後	2 年	×		◎									◎				
		社会的養護Ⅰ		△2	講義	前	2 年	×		◎					◎				◎				
	子ども理解・人間理解	保育・教育心理学	2		講義	前	1 年	×		◎				◎					◎				
		子ども家庭支援の心理学	2		講義	前	2 年	×		◎		○						◎		◎			○
		子どもの理解と援助	2		演習	前	2 年	×		◎				◎				◎					
		特別支援教育概論	2		講義	後	2 年	×		◎				◎					◎				
		保育・教育相談		※□2	演習	前	3 年	×										◎					◎
		子どもの保健		△2	講義	後	3 年	×		◎									◎				
		子どもの食と栄養		△2	演習	前	3 年	×		◎									◎				
		多文化保育論		□2	講義	前	3・4 年	×		◎				◎					◎				
		青年心理学		□2	講義	前	2・3・4 年	×		◎			◎						◎				
	保育・教育の内容及方法	子どもと健康	2		演習	前	2 年	×		◎				○		◎			◎				
		子どもと人間関係	2		演習	後	2 年	×		◎			○			◎		○					◎
		子どもと環境	2		演習	後	1 年	×		◎						◎			◎				
		子どもと言葉	2		演習	後	1 年	×		◎		◎		○		◎							
		子どもと表現Ⅰ	1		演習	前	2 年	×		◎		○			○	○					○		
		子どもと表現Ⅱ	1		演習	後	2 年	×		◎		○			○	○					○		
		保育内容総論		※△2	演習	後	3 年	×						◎				◎					◎
		保育内容の指導法（健康）		※△2	演習	後	2 年	×		◎								◎					◎
		保育内容の指導法（環境）		※△2	演習	前	3 年	×		◎									◎				
		保育内容の指導法（人間関係）		※△2	演習	前	3 年	×						○		◎				◎			○
		保育内容の指導法（言葉）		※△2	演習	前	3 年	×				○	○	○		◎				◎			◎
		保育内容の指導法（表現）		※△2	演習	前	3 年	×				○			◎					◎			◎
		教育方法		※□2	講義	前	2 年	×		◎								◎					
		保育・教育課程論		※△2	講義	前	3 年	×		◎			◎	○						◎			○
		障害児保育		△2	演習	前	3 年	×					◎						◎				
		乳児保育Ⅰ		△2	講義	後	2 年	×		◎						◎		○		◎			○
		乳児保育Ⅱ		△2	演習	前	3 年	×				◎				◎		○		◎			○
	感性と表現	子ども家庭福祉Ⅱ		□2	演習	後	3・4 年	×							◎			◎					◎
		社会的養護Ⅱ		△2	演習	後	2 年	×											◎				◎
		子育て支援		△2	演習	後	3 年	×											◎				◎
		子どもの健康と安全		△2	演習	前	2 年	×									◎	◎	○		◎		
		音楽リテラシーⅠ		※□2	演習	後	1 年	×		◎						◎					◎		
		感じて表現・考えて表現	2		演習	後	1 年	×				◎			◎								
		ネイチャー・ワーク	2		演習	前	2 年	×				◎			◎			◎					○
子どもと運動		2		演習	前	1 年	×				◎			◎								◎	
音楽リテラシーⅡ			1	演習	後	3・4 年	×		◎							◎				◎			
保育表現演習（造形表現）			2	演習	後	3・4 年	×		◎		○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

科目区分		授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (○…重要な目的としている ○…主な目的としている)															
			必修	選択						基礎理論の修得	保育・教育の基	感性と表現力の醸成	子どもと関わる意欲	研鑽への意欲	自己省察と自己研鑽	子どもの権利に対する意識	乳幼児保育に関する知識	子どもの権利に関する知識	多様な他者と連携・協働しようとする態度	保育・教育をめぐる社会的な諸課題への理解	保育・教育の社会的課題の解決に向けた意欲	子どもの実態に基づく保育の構想・計画と実践			
専門科目	感性と表現	保育表現演習（音楽表現）		2	演習	後	3・4年	×		○	○	○	○	○	○		○	○							
		保育表現演習（身体表現）		2	演習	後	3・4年	×		○	○	○	○	○	○		○	○							
	フィールドワーク（実習）	児童学演習	2		演習	通年	1年	×		○			○												
		幼児教育基礎実習	2		実習	後	2年	×			○	○	○	○	○										
		幼児教育基礎演習	2		演習	後	2年	×			○	○	○	○	○				○						
		幼稚園教育実習総論		※2	演習	通年	3・4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		幼稚園教育実習		※4	実習	通年	4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習総論Ⅰ		△2	演習	通年	3・4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習Ⅰ（保育所）		△2	実習	通年	3・4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習Ⅰ（施設）		△2	実習	通年	3・4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習総論Ⅱ		□1	演習	前	4年	×	★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習Ⅱ		□2	実習	通年	4年	×	★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習総論Ⅲ		□1	演習	前	4年	×	☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育実習Ⅲ		□2	実習	通年	4年	×	☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		保育インターンシップ		□2	実習	通年	3・4年	×					○						○						
	総合・発展	児童学研究法	2		講義	後	3年	×		○	○		○					○		○					
		保育学	2		講義	前	3年	×		○		○	○			○			○	○					
		表現総論	2		講義	後	3年	×			○		○							○					
		保育実践論		2	講義	前・後	3・4年	×								○	○			○					
		乳幼児発達論		2	講義	前・後	3・4年	×		○						○	○			○					
		発達臨床特論		2	講義	前・後	3・4年	×								○	○			○					
		こども家庭福祉特論		2	講義	前・後	3・4年	×								○	○			○					
		幼児運動論		2	演習	前・後	3・4年	×								○	○			○					
		表現特講		2	講義	前・後	3・4年	×								○	○			○					
		保育・教職実践演習		※△2	演習	後	4年	×			○		○			○				○					
		卒業研究演習	2		演習	後	3年	×		○			○			○				○					
		卒業研究	4		演習	通年	4年	×		○			○			○				○					

〔単位数欄の記号について〕

註：※印の科目は、幼稚園教諭一種免許状の必修科目

註：△印の科目は、保育士資格の必修科目

註：□印の科目は、保育士資格の選択必修科目

〔「卒業研究」の履修について〕

註：「卒業研究」を履修するには、原則として、3年次終了時に修得単位数が80単位以上であること。

〔資格の履修について〕

註1：幼稚園教諭一種免許状取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある※印の科目を全て履修しなければならない。

註2：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある△印の科目を全て履修しなければならない。さらに単位数欄にある□印から7単位以上を選択して履修すること。そのうち、「保育実習総論Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」又は「保育実習総論Ⅲ」と「保育実習Ⅲ」のどちらか3単位以上履修しなければならない。

註3：フィールドワーク（実習）科目については、幼児教育学科が作成した「実習の手引」の記載事項をふまえて履修すること。

註4：社会福祉主事任用資格取得希望者は、次の科目を履修する必要がある。「教育学」「保育学」「社会福祉」

1 保育士資格 取得課程（幼児教育学科）

保育士資格は児童福祉法第18条の4に則るところの法定資格です。

保育士業務を行うには、都道府県知事に対して登録申請を行い、保育士登録簿への登載、保育士証の交付を受ける必要があることを承知しておいてください。（児童福祉法第18条の18）

なお、現在は、卒業年度に申請手続きを希望する学生に限り、大学が一括して「都道府県知事委託 保育士登録機関 登録事務処理センター」に申請を行います。

申請手続きの方法、時期、登録手数料等については別に連絡をしますので、各自の責任において申請手続きを行ってください。

保育士資格取得には、卒業に必要な単位を修め、かつ他に指定科目を修めて卒業する必要があります。

実習科目の履修にあたっては、別冊「実習の手引」に記載されている実習の要件を全て満たすことが必要です。

2 保育士（幼児教育学科）

1 教養科目

告示による教科目			指定保育士養成施設における教科目の開設状況				履修期	配当 学年	備 考
教科目	授業 形態	単位数	本学開設科目	授業 形態	単位数				
					必修	選択			
外国語、体育 以外の科目	不問	6 以上	入門ゼミナール	講義	2		前期	1	
			地域と人間生活	講義		2	前・後	2・3・4	
			人間理解ワークショップ	講義	2		前・後	2・3・4	教育人文学部必修
			キャリアデザインとライフプラン	講義		2	前・後	1	
			リーガルリテラシー	講義		2	前・後	1	
			ジェンダーリテラシー	講義		2	前・後	1	
			子育てと環境	講義		2	前・後	1	
			女性と健康	講義		2	前・後	1	
			グローバル社会	講義		2	前・後	1	
			ネットワーク社会	講義		2	前・後	1	
			共生社会入門	講義		2	前・後	1	
			多様性と倫理	講義		2	前・後	1	
			持続可能な社会	講義		2	前・後	1	
			くらしのなかの日本国憲法	講義		2	前・後	1・2・3	
			はじめてのデータサイエンス	講義	2		後期	1	
外国語	演習	2 以上	英語コミュニケーション演習	演習	1		前・後	1	
			英語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	*の科目から1科目 1単位必修
			英語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
			英語Ⅱ a	演習		* 1	前期	2・3・4	
			英語Ⅱ b	演習		* 1	後期	2・3・4	
			中国語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			中国語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
			中国語Ⅱ a	演習		* 1	前期	2・3・4	
			中国語Ⅱ b	演習		* 1	後期	2・3・4	
			朝鮮語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			朝鮮語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
			フランス語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			フランス語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
体育	講義	1	女性の心と身体	講義	2		前期	1・2・3	
	実技	1	身体運動Ⅰ	実技	1		前期	1・2・3・4	
			身体運動Ⅱ	実技	1		後期	1・2・3・4	
小 計		10以上	小 計			11	36		

註：*の科目から1科目1単位以上履修し、12単位以上履修すること。

2必修科目

告示別表第1による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況				履修期	配当 学年	備考
系 列	教科目	授業 形態	単位数	本学開設科目	授業 形態	単位数				
						必修	選択			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	幼児教育学	講義	2		前期	1	
	教育原理	講義	2	教育学	講義	2		後期	1	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2		前期	1	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2		後期	1	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		前期	2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		前期	2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		後期	1	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育・教育心理学	講義	2		前期	1	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		後期	2	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	2		前期	2	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2		後期	3	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		前期	3	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育・教育課程論	講義	2		前期	3	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		後期	3	
	保育内容演習	演習	5	保育内容の指導法（健康）	演習	2		後期	2	
				保育内容の指導法(人間関係)	演習	2		前期	3	
				保育内容の指導法（環境）	演習	2		前期	3	
				保育内容の指導法（言葉）	演習	2		前期	3	
				保育内容の指導法（表現）	演習	2		前期	3	
	保育内容の理解と方法	演習	4	子どもと健康	演習	2		前期	2	
				子どもと人間関係	演習	2		後期	2	
				子どもと環境	演習	2		後期	1	
				子どもと言葉	演習	2		後期	1	
				子どもと表現Ⅰ	演習	1		前期	2	
				子どもと表現Ⅱ	演習	1		後期	2	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		後期	2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2		前期	3	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2		前期	2	
障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		前期	3		
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2		後期	2		
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2		後期	3		
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2		通	3・4	
				保育実習Ⅰ（施設）	実習	2		通	3・4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習総論Ⅰ	演習	2		通	3・4	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	2		後期	4	
小 計			51	小 計		68				

3 選択必修科目

告示別表第2による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況			履修期	配当 学年	備考
系 列	教科目	授業 形態	単位数	本学開設科目	授業 形態	単位数 必修 選択			
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	保育制度・保育政策論	講義	2	後期	2	
				子ども家庭福祉Ⅱ	演習	2	後期	3・4	
保育の対象の理解に関する科目				児童学研究法	講義	2	後期	3	
				青年心理学	講義	2	前期	2・3・4	
				多文化保育論	講義	2	前期	3・4	
保育の内容・方法に関する科目				教育方法	講義	2	前期	2	
				特別支援教育概論	講義	2	後期	2	
				保育・教育相談	演習	2	前期	3	
				音楽リテラシーⅠ	演習	2	後期	1	
				子どもと運動	演習	2	前期	1	
				感じて表現・考えて表現	演習	2	後期	1	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	★保育実習Ⅱ	実習	2	通年	4	★印の2科目3単位、又は☆印の2科目3単位を履修すること
				☆保育実習Ⅲ	実習	2	通年	4	
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	★保育実習総論Ⅱ	演習	1	前期	4	
				☆保育実習総論Ⅲ	演習	1	前期	4	
				保育インターンシップ	実習	2	通年	3・4	
小 計			18以上	小 計		10 20			

註：「保育実習Ⅱ」と「保育実習総論Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習総論Ⅲ」の3単位を含む17単位以上を履修すること。